

1. 単元名「買い物を通じて繋がる世界の誰かと私」

2. 単元の目標

○チョコレートやコーヒーなどの商品の生産の背景にある児童労働問題やフェアトレードについて知識を身につけ、学校や地域の人々に伝わるように自分の言葉でリーフレット・ポスター等に情報をまとめることができる。（知識・技能）

○児童労働の実態を映画や数値データ、英語記事などの資料から読み取り、そこからわかった内容から根本的な原因やこれからの課題、生徒自身ができるアクションについて考える。また、わかったことや考えたことをグループ内で共有したり、リーフレット・ポスター等で他者に伝えたりすることができる。（思考力・判断力・表現力）

○自らの消費活動が生産地の児童労働と繋がっていることに気づき、不公正な状況を改善したいという意識をもつことができる。さらに、周囲の人々と協力をして身近にできることから工夫して、アクションを起こすことができる。（主体的に学習に取り組む態度）

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、①カカオの生産における児童労働問題を扱ったドキュメンタリー映画の鑑賞②テーマに関する英文の読解③TED Talks のプレゼン動画の鑑賞(ディスカッションを含む)④地元企業への訪問⑤地域でのフェアトレードチョコレート販売・宣伝 を教材として扱う。

映画鑑賞、資料読解、プレゼン鑑賞とそれに伴う生徒同士の意見共有の後、実際に身体を動かしてアクションに移ることができるような流れを意識している、

(2) 生徒観

フェアトレードや児童労働という言葉には中学校で触れたことがある生徒が多く前提知識はある。一方で、知識は持っていてもどこか自分たちとは関係のない遠い世界の問題だと感じやすい国際協力系のテーマであるため、できるだけ生徒自身との接点・関連性を持たせることができるように工夫する。

本校には保育士を目指す生徒が多く、児童労働という「子ども」に関するトピックには関心を持ちやすいと予想できる。また、国際協力に関心のある生徒もいるので、今回の単元をきっかけに視野が広がることを期待している。

(3) 指導観

まず数種類のチョコレートの値段の違いを提示し、安いチョコレート・高いチョコレートそれぞれの商品の背景を想像させる。また、人々が商品を選ぶときにどのような基準で購入しているのか生徒同士や教職員へインタビューを通して考察させる。値段・商品の質などが大多数だと予想されるが、消費活動に対する自分たち（生徒・教職員）の価値観がどのようなものなのか、改めて考えさせる。

次に、映画「バレンタイン一揆」を教材として用いて、チョコレートの原料であるカカオの生産における児童労働やフェアトレードについて学ばせる。その後世界では現在でもなお多くの子供たちが教育を受

けずに労働させられているという状況（児童労働の世界推移2022データを提示）を知らせ、現実的な問題としてチョコレートを消費する日本の私たちと児童労働問題が繋がっていることに気づかせる。さらに、児童労働問題に関連する3種類の英語の記事やTED Talksを用いてジクソー法によるグループ内での内容共有を行う。生徒はグループ内での自分の役割を持っているため、主体的に内容理解のため英語を用いることを期待したい。

続いて、TED Talksの「私の朝のコーヒーを担うすべての人々に感謝する旅」という動画を鑑賞し、私たちが普段消費しているものには世界中の多くの人が関わっていることを理解させる。また、グローバル化するサプライチェーンのなかで、弱い立場にいる生産者のために消費者はどのようなことができるのかを具体的に考えさせる。話し合い活動のなかで、自分の買い物（商品選び）に対する価値観との矛盾があれば向き合わせる。

最後にこれまでに学習してきたことを生徒たちが身近な行動に移すことができるように働きかけを行う。最初のステップとして、白梅学園がある東京都小平市を本社とする「有楽製菓」（ブラックサンダーを販売する企業）を訪問し、フェアトレードカカオを導入することになった経緯についてお話を伺う。また、実際に小平市でオリジナルフェアトレードを販売する「まちちょこプロジェクト」で生徒主体でフェアトレードの宣伝活動を行うことができるよう援助する。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・相互性・・・教育は貧困、ジェンダー、健康、福祉などの問題と密接に結びついているので、教育が不十分なこと（児童労働）が多面的に人々に悪影響を及ぼすこと。
- ・公平性・・・教育を受けないことによって将来世代にわたり悪影響が及ぶこと。先進国と途上国では子供をとりまく環境が大きく異なること。
- ・連携性・・・途上国の人々の暮らしや生産と先進国の人々の消費が結びついていること。
- ・責任性・・・日本暮らす私たちが、倫理的な消費活動に責任を持つこと。日本と途上国のつながりに関心をもつこと。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

・批判的に考える力

何気なく手にとっていたものが、外国の児童労働問題に関連していることを知り、安価なものを追い求める消費のあり方を振り返る。

・多角的・多角的に考える力

児童労働の問題をさまざまなSDGsと照らし合わせて考える。途上国での問題点だけではなく、日本で暮らす私たちの責任についても見つめ直す。

・他者と協力する態度

教育を受ける意味とはどのようなものなのか、児童労働を減らすため日本で暮らす私たちができることはどのようなことなのか、ディスカッションのなかで考えを深める。

・つながりを尊重する態度

遠い国の子供たちと日本で暮らす私たちのつながりを意識し、行動を変えていく。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

・ 世代間の公正

子供たちの教育を保障することによって、将来世代にわたって豊かさを保証する。

・ 世代内の公正

同じ時代を生きる途上国の人々の生活も意識して行動できる。生産者も消費者も幸せになるつながりの強化。

・ 基本的人権の尊重（ジェンダー平等・差別を許さない）

子供や女性の権利を守るためにも、「教育」を重視する必要がある。その教育をまもるために日本でできることがある。

・ 平和な社会を作る

教育が不十分な社会では、搾取や抑圧が避けられない。平和な社会を作るためにも、教育を保障する必要がある。

・ 達成が期待される SDG s

目標 1：貧困の撲滅 目標 3：健康・福祉 目標 4：教育 目標 5：ジェンダー平等

目標 8：経済成長と雇用 目標 10：不平等解消 目標 12：生産と消費

目標 16：平和・公正 目標 17：グローバル・パートナーシップ

4. 単元の評価基準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 児童労働問題やフェアトレードという言葉とそれらを取り巻く状況について知識として理解している。</p> <p>② 教材・資料を用いて学んだことを、自らの言葉でまとめることができる。日本語・英語の両方を用いて資料を読解することができる。</p>	<p>① 教材や資料をもとに課題を認識し、解決策を考えることができる。</p> <p>② 自分たちの消費活動を批判的に振り返って、どのように児童労働との繋がりがあのか他者に共有することができる。</p> <p>③ 学んだことや考えたことをリーフレットやポスター等にまとめ他者が理解できるように表現することができる。</p>	<p>① 児童労働と自分たちの消費活動との関連性に気づいただけではなく、生産者の生活を守るための行動を積極的に考えることができる。</p> <p>② 周囲の人々と協力をして身近にできることから工夫してアクションを起こすことができる。</p>

5. 元の指導計画（8時間）

生徒の学習活動	学習への支援	評価・備考
<p>1. 市販のチョコレートを数種類実際に手に取り、それぞれの値段が異なる理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いほうが原料の質がいいのかな。 ・フェアトレードのチョコレートだから値段が高いのかな。 <p>2. 普段ものを買うときに何を基準に選んでいるのか、話し合う。また、学校内で職員・教員・生徒にインタビューする。</p>	<p>○様々なチョコレートを提示し、それらの値段の違いの背景を想像させる。</p> <p>○校内の人々との交流を通して、チョコレートも含め、人々が買うものを決めるときに影響する価値観を考察させる。</p>	<p>イ①②</p>
<p>3. 映画「バレンタイン一揆」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カカオ生産の裏にある児童労働やフェアトレードについて知る。 ・実際に学生が行っているアクションを知る。 <p>4. 児童労働の世界推計（2022）をもとに、世界で働く子供たちの現状（推移、地域差など）を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増えていることは予想外。 ・別世界の話のようだ。 <p>5. 児童労働問題に関する英文の記事またはTED Talksの3種類をグループ内で分担し、それぞれの内容をグループ内で報告する。</p> <p>① 教育の不足 ② ジェンダー問題 ③ ファストファッション</p>	<p>○カカオの生産地ガーナを訪れた日本の女子生徒を取り上げたドキュメンタリー映画の鑑賞を通じて、日本人が消費するものと生産者の繋がりを考えさせる。</p> <p>○テーマに沿った記事や動画を提示し、学びを深める。グループ内で担当を決めさせることで、各自が責任を持って読解にあたることができる。</p>	<p>ア①②</p> <p>ア②</p> <p>イ②</p>
<p>6. TED Talks 「私の朝のコーヒーを担うすべての人々に感謝する旅」の鑑賞（英語音声・日本語字幕）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちが普段消費しているものには世界中の多くの人がかかわっているのだな。 ・悪意なく搾取の連鎖にかかわっている場合もある。 <p>7. ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者への「ありがとう」の言葉の代わりに、私たちができることはなんだろう。できないことはなんだろう。 	<p>○チョコレート以外にも児童労働の温床になっていると言われるコーヒーに関するプレゼン動画（TED）を鑑賞させ、私たちが消費するものがいかに世界の人々と繋がっているのかに気づかせる。</p> <p>○ものづくりにおけるサプライチェーンに関係する生産者の幸せのために、消費者である私たちができることを考えさせる。</p>	<p>ア①②</p> <p>イ①②</p>
<p>8. 株式会社「有楽製菓」への訪問</p> <p>9. 自分たちの町でフェアトレードチョコレートを広めよう！「まちチョコプロジェクト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョコレート選定（企業選び・生産地選び） ・小平市の協力店舗渉外（地域で商売を行う人々との交流） ・販促品づくり <p>10. 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的にアクションを継続していくことが大事だな。 	<p>○ブラックサンダーにフェアトレード原料を使うことになった経緯を有楽製菓の方にお話いただく。</p> <p>小平市にある企業の取り組みから、企業のフェアトレード推進を身近に感じさせる。</p> <p>○日本語と英語の二か国語でリーフレットを制作。外国籍の方にもわかりやすく、情報をまとめる。</p>	<p>イ③</p> <p>ウ①②</p>